

第7回 日本免震構造協会賞 -2006-

第7回日本免震構造協会賞は、右に記す諸氏及び作品を表彰することに決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造の適正な普及発展に功績が顕著な者に、技術賞は、免震建築物の設計、施工及びこれらに係る装置などについて研究開発により優れた成績をあげた者にそれぞれ贈る。作品賞は、免震構造の特質を反映した、優れた建築物とする。

表 彰

2006年6月8日

(社)日本免震構造協会通常総会後

(社)日本免震構造協会表彰委員会委員

五十殿侑弘(委員長) 小幡 学 神田 順
北村春幸 仙田 満 平島 寛 村井義則
六鹿正治

審査経過

本年度の日本免震構造協会賞のうち、功労賞については、平成12年6月以来、当協会発展のために多大な貢献をされ、本年6月退任の山口会長を満場一致で選出した。

技術賞及び作品賞の応募状況は合わせて13件であった。技術賞は貯留水槽内に免震建物を設置した、いわゆるパーシャルフロートの免震構造の開発など2件の応募があった。

当初免震構造の適用は病院や住宅に集中していたが、昨今の地震に対する安全・安心への一層の高まりを背景に、建物用途を問わず、あらゆるジャンルの建物に広がりを見せ始めている。

今回応募の作品賞も、病院・住宅はもとより、学校・ホテル・報道機関本社ビル、城郭、商業+住宅の複合ビルと、実に多岐にわたっている。

この様に多種多彩な建物を公平に審査するために、評価

選 考 結 果

第7回日本免震構造協会賞受賞は下記の6件である。

I 功労賞

株式会社東京建築研究所 山口昭一

II 技術賞

- 1) <特別賞>パーシャルフロート免震構造の開発
清水建設株式会社 大山 巧、猿田正明、田崎雅晴
堀 富博、土屋宏明

III 作品賞

- 1) 慶應義塾大学(三田)南館
慶應義塾大学 吉田和夫
大成建設株式会社 芝山哲也、篠崎洋三、長島一郎
株式会社日立製作所 讃井洋一
- 2) 信濃毎日新聞社本社ビル
信濃毎日新聞株式会社 小坂健介
株式会社日建設 常木康弘、長瀬 悟、中西規夫
鹿島建設株式会社 金丸康男
- 3) ホテル エミオン 東京ベイ
スターツCAM株式会社 佐口竜也
株式会社日本設計 小林利和、浅野一行
前田建設工業株式会社 川述正和
- 4) <特別賞>国際医療福祉大学附属熱海病院
株式会社医療福祉建築機構 佐々木邦彦
株式会社大林組 橋本康則、奥田 覚、甲賀一也
田畑博章

(敬称略)

軸を明確にする必要がある。すなわち意匠性及び使用性、構造設計・設備設計の合理性、免震技術の創造性・優秀性、施工とメンテナンス、工学的・社会的インパクトなどである。

本年1月中旬開催の第一回表彰委員会では、各自の事前の検討を踏まえた上での活発な議論がなされ、第一次書類選考として、技術賞2件、作品賞6件を最終候補として満場一致で可決した。

技術賞については各候補者からヒアリングを行い、水槽内の浮力の効果を部分的に活用した、新しい発想の構造システムを未来への挑戦という意味で技術賞(特別賞)として選定した。

作品賞については2月、3月に計4回にわたって、6件の候補作品について現地審査を行い、3月末開催の最終選考委員会において、3件が満場一致で採択された。いずれの作品も建築・構造・設備の整合性に優れ、免震建物としての優位性が十分に発揮された質の高いものである。

さらに地震多発地域の崖地に建つ病院建設に当たっての基本理念が、コスト、工期、施工上の多大なハンディキャップに優先して、安全・安心が第一に設定された点を評価し、作品賞(特別賞)として選定した。